

メディカルはこだて

Medical Hakodate 《2020 September》

函館・道南の医療・介護・福祉の雑誌

vol. **75**

[特集]

病院看護師の 新たな挑戦と役割

TOPICS REPORT

新型コロナウイルス患者を受け入れてきた市立函館病院
函館五稜郭病院は抗原迅速診断キット検査を導入

TOPICS NEWS

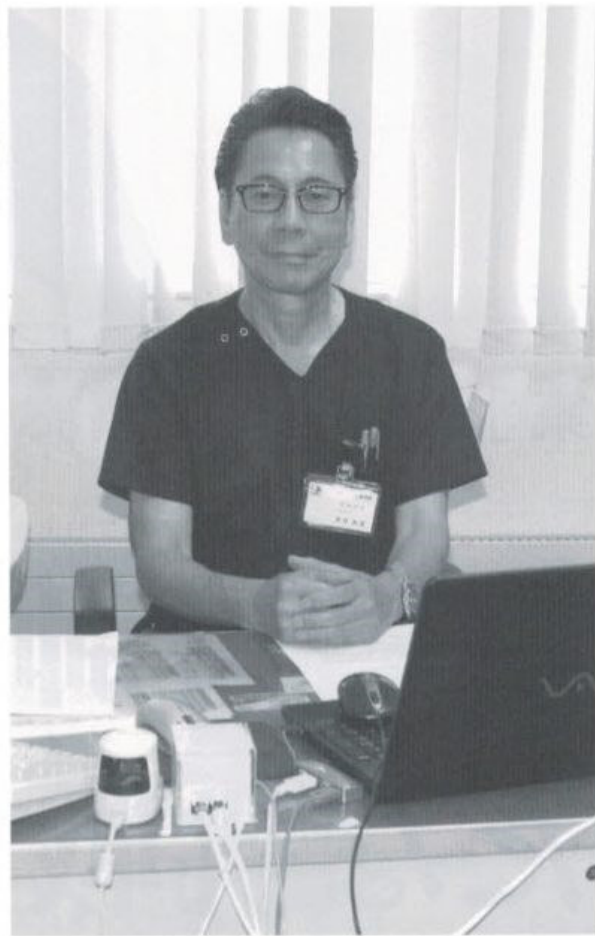
病院から「介護医療院」へ転換、新たな地域医療へ再出発
西堀病院は理事長・事務部長が交替する新体制がスタート

DOCTOR CLOSEUP

国立函館病院の麻酔科と形成外科の医師として着任



医療現場で活躍の幅を広げている男性看護師 職員が楽しく働き続ける職場環境作りが重要



看護部長室で取材を受ける北村和宏さん。

高橋病院看護部長
北海道看護協会道南南支部支部長

北村 和宏

認定看護管理者

医療現場に男性看護師が増えている。活躍の幅を広げている男性看護師は存在感を増しているが、高橋病院（高橋肇理事長）看護部長の北村和宏さんもその一人。北村さんは今年2月から北海道看護協会道南南支

部の支部長に就任したが、同協会が公益社団法人となつてからの男性支部長は北村さんが第1号となった。同協会の今年6月末の看護師の会員数は4万9711人。「男性看護師の会員数は3402人で、会員数に

占める割合は8・3%です。2008年は5%でしたので、3ポイント以上高くなっています。当院でも看護師の10%は男性で、近年、男性看護師は徐々に増えています」。

以前の男性看護師は力仕事が必要とされる診療科や病棟への配属が多かった。「昔の男性は精神科と決まっています。私も精神科から臨床工学士の国家資格制度

もなく、機器扱いが得意な男性看護師が集中治療室や手術室、透析室などに配属されていました」。

北村さんは2000年に高橋病院に入職したが、一度退職をしている。「看護師として仕事をしていくために、学び直すことを決意し、天使大学看護栄養学部看護学科に編入して保健師の資格を取得、病院へ戻りました」。10年看護部長に就任した。看護管理者として最も大事にしていることは「職員が楽しく働き続けることができる職場環境作り」と指摘する。

同病院は民間病院としていち早くACP（アドバンス・ケア・プランニング）に取り組み、今年7月までのACP（開催数）は180件を超えている。現在では地域包括ケア病床だけではなく、一般病床や回復期リハビリテーション病床、介護療養型病床、さらには外来や訪問診療などでも実施するようになった。「今後は病院と在宅部門でACPを共有し、患者と家族を支えていくことが当院の使命だと考えています。患者

と家族が希望する生き方・人生に対して、どのような支援ができるのかを考えることができる看護師の育成に努めていきます」。

「患者に安心・安全な医療を提供するためには、医療者が制度や組織によって疲弊したり、自己犠牲によって自分の生活や将来を失ってはいけません。看護師も生活者です。楽しく働くことで、組織が活力を生み出し、患者へのケアの質向上へと繋がるのではないのでしょうか」。北海道看護協会道南南支部では看護専門職能としての資質向上や専門職能団体として地域住民への貢献、さらには看護職一人ひとりの健康で働ける労働環境の改善など、会員相互の連携を深めながら組織活動を行っている。

「職員の幸福度が上がると生産性と業績も向上すると言われていますが、看護協会ではこの部分も重点課題として取り組んでいます。看護管理者として「職員を大切にしている」というメッセージをこれからも発信していきます」。